

## 中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	日本アイ・ビー・エム株式会社社員が 20 年間の仕事を通じて学んだこと
報告者	国際経営学部国際経営学科 1 年 浅地 真梨唯
調査日	2023 年 11 月 10 日
調査先	日本アイ・ビー・エム株式会社（以下 IBM） テクノロジー事業本部 戦略イニシアティブ担当 事業部長 高木泰成様 Employer Branding Manager 根本亮様
担当教員身分・氏名	国際経営学部 事務室 熊谷 穂
担当 CVS	蔣思音、布尾和也、高橋夢有人
授業科目/学部企画名	訪問調査（企業訪問）
参加学生数(学年)	46 名（1 年生 43 名、4 年生 3 名）
調査趣旨・目的	IBM にて働くお二人からお話を聞くことによって、コンサル業界にだけでなく社会や働くことについての関心を高める
調査結果	<p>中央大学 FOREST GATEWAY CHUO 3 階 Hall において、日本アイ・ビー・エム株式会社（以下 IBM）から高木泰成氏と根本亮氏にお越しいただき、第 1 部に「働くを通じて“自分”を考える ～外資系企業 20 年間の振り返って～」というテーマでの高木氏のご講演、第 2 部として高木氏と根本氏、IBM 就職予定者の張天皓さんによる質疑応答形式の座談会を行った。</p> <p>IBM はアメリカ合衆国ニューヨーク州アーモンクに本社を置き、世界を日本・ヨーロッパ・太平洋・アメリカの 4 地域分割しサービスを展開している。強みとして、独自の研究機関があり、約 3000 人に及ぶ研究者が基礎研究を行っているため未来を見据えた解決策の提案を可能にしている。「オープン戦略で最先端をいく」という考え方を大切にしており、現在は量子コンピューターの応用方法のコンサルティングも行っている世界最大手規模の IT 企業である。</p> <p>高木氏は、入社後 12 年間はお客様担当営業部門にて現場仕事を通じ傾聴力や業界知識を習得したのち、営業部長として専門性を高めていったというご経歴の紹介があり、営業部門での目標達成率の高さが評価され本社勤務となったが、そのお話の中で過去の栄光や実績にすぎらず、常に新しいことに挑戦することが重要であるとおっしゃっていて、IBM で活躍できる人材は守りに入らず、柔軟にまた果敢に新しいものに挑戦できる人だと知り、自身の成長には常に学び続ける謙虚な姿勢や学びに対する貪欲さが求められるのだと実感した。</p> <p>本社勤務では、ロールモデルとなる上司に巡り合い、その方に仕事の基礎を学んだことが今につながっているという。高木氏の体験や知識からセンスが磨かれるという考えや、世の中の「良い」とされるものや「悪い」とされるもの、また「普通」とみなされるものを学び続ける姿勢、思い込みや主観を捨て世の中の常識を知る、というお話も印象的で、今後の学修に活かしていきたい。</p> <p>IBM は外資系企業であることから、実績や能力がある者が昇進する</p>

競争社会である。ご講演では、人間味のあるお話もされていたが、そこで、自己の成長を自らの手で引き寄せる、他者と比較するのではなく、過去の自分と比較し、自分を振り返る時間を設けることが必要であると学んだ。

高木氏の IBM での 20 年間のご経験が今の価値観に大きく影響を及ぼしているという。「リーダーシップとは何か」とは、誰もが直面する難しい課題だが、良いリーダーシップとは「チームのメンバーの成功を応援できること」と定義した。メンバーが楽しみながら自走し、成功できる環境を醸成するのがリーダーであるというお話は目から鱗だった。IBM は社員のキャリア形成を応援する環境が整っている。高木氏のリーダーシップの捉え方は IBM の企業理念と合致する。そのため、自分の未熟さを認め、意欲的にやるべきことを発見できる人間は社内でも成長していくことができるということであった。会社の歯車として働くのではなく、個人としてキャリアについて考えられる環境が整っていることは、働くことへのモチベーションの向上に大きく貢献するのだと感じた。高木氏はこの環境下で自分に切迫感を与え続け、ニュースや英語のインプット・アウトプットを実践しており、そんな IBM の整備された環境でも、それをどう活用できるかは自分次第であり、その機会を最大限活かそうと努力することが重要であるというお話に感銘を受けた。

ご講演の最後には高木氏の現在考えていることについてのお話があった。社内で完結しないビジネスモデルが定番となった今、会社やアプリだけでなく人材も「部品化」されているという。今は副業という言葉があるが、いずれは複業が普通となる時代がくる。人材もパズルのピースのような存在になっていくというお話の中で、自分の関心分野の知識や経験の深さや幅、奥行きがどれほどあるかが肝心になっていくだろう。

第 2 部の質疑応答形式の座談会で、学生からの多くの質問に丁寧に応えていただいた。学生からのたどたどしい質問に対し、根本氏による質問の真意を探る能力には驚かされた。

質疑では、リーダーシップについての質問やキャリアに関する悩み、自分が取り組むことへのアドバイス、知識や経験を増やすための応報、IBM での仕事の様子に関する質問など多岐にわたり、予定時間を大幅に過ぎてしまったが、最後までお付き合いいただき、学生にとって学びの多い有意義な時間となった。

今回の企業訪問を通じて、今後の学生生活に直結する実践的な学びを得ただけでなく、働くことに対する関心が向上し、自分のキャリア形成について深く考える良い機会となった。IBM の方々のお話をもとに日々の生活を振り返り、自己の成長につなげられるよう意識していきたい。



IBM・高木氏のご講演  
「働くを通じて“自分”を考える ~外資系企業 20 年間を振り返って~」



代表学生からの挨拶



座談会形式の質疑応答の様子（左から根本氏、高木氏様、張さん）



企画終了後の集合写真